



「日本初の自身の幹細胞を利用した再生医療による認知症・難病治療」をサポート致します。

公益財団法人がん集学的治療研究財団（会長：藤田 譲・理事長：山岸 久一）は、予てより患者にやさしいがん治療をテーマに臨床研究を行い、がん治療ガイドラインにも採用されるような医学的に価値のある研究成果を世に出してまいりましたが、本年度より**幹細胞を用いた再生医療を事業目的に加え、認知症・難病治療をサポートいたします。**

（弊財団の歴史については P4 参照）

再生医療に取り組む理由

当財団：理事長 京都府立医科大学元学長：名誉教授である山岸久一医師が主導する**脂肪組織由来幹細胞治療（ADSC 治療）**は下記①～③の点で可能性に満ちた治療法ですが、医学界における認知度は低い状況です。がん患者様だけでなく、認知症・難病で苦しむ方々を助けることも弊財団の目的に合致すると考え、今回 ADSC 治療をサポートしていくことになりました。

- ① アルツハイマー型認知症や筋萎縮性側索硬化症（ALS）など、**治療法が確立していない疾患においても症状回復**が見られるなど、他の治療法では得られない**驚異の治療成績**を示している。
- ② 自己の脂肪組織より採取した幹細胞を培養したのち、静脈投与するという方法であるため**拒絶反応の心配がない。**
- ③ 骨髄由来幹細胞などと比べ、**採取に伴う危険が少ない。**

幹細胞治療の治療成績

脂肪組織由来幹細胞治療（ADSC 治療）の治療成績については、次ページの要旨をご覧ください。また、山岸久一の著書「諦めない」をご一読頂くか、弊財団の HP や公開されている YouTube 動画においてもご覧いただけます。

- ・「諦めない」株式会社アークメディア 発行 1980 円
（ https://arcmedium.co.jp/products/detail.php?product_id=4948 ）
- ・弊財団 HP YouTube （ <https://www.youtube.com/channel/UC6VPIPWT8gj5Gyb-N-nyr3g> ）
- ・YouTube 動画 （ <https://www.youtube.com/watch?v=lpGZ7YVQvQc> ）

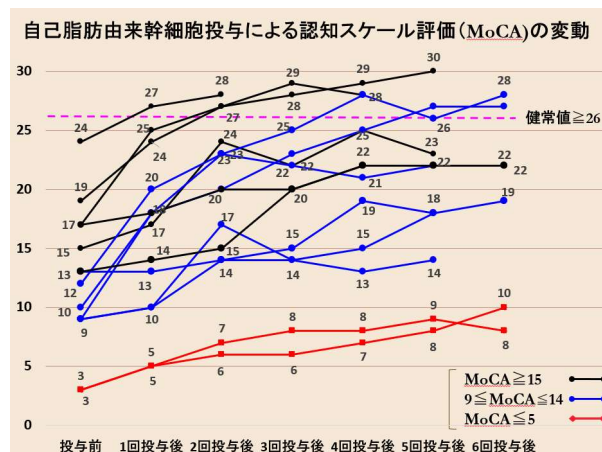
本件に関するお問合せ先

公益財団法人がん集学的治療研究財団 再生医療担当 事務局長 金子正利、解析課 武藤賢
E メール：m-mutoh@jfm.or.jp TEL：03-5627-7594 携帯：090-1992-5136

脂肪組織由来幹細胞治療（ADSC 治療） 驚異の治療成績

1. アルツハイマー型認知症

14 人のアルツハイマー型認知症患者に対して ADSC 治療（自己の脂肪組織から採取した幹細胞を培養し、約 1 カ月毎に点滴投与する）を行い、全ての症例で認知機能評価(MoCA)が改善しました（下図参照）。特に、治療前の認知機能評価が中等度(MoCA 9 点以上)であれば、75%(9/12)の症例で、認知機能が健常値近く、又は健常値を超える状態にまで上昇しました。



最新の薬物治療においても認知症の進行を遅らせることが精いっぱいであるのに対して、ADSC 治療では症状が回復し、さらの健常状態まで戻る症例もあったということは驚くべき結果であると考えます。

アルツハイマー型認知症の原因として、脳内のアミロイド蛋白の蓄積やタウ蛋白のリン酸化などが知られていますが、ADSC はアミロイド蛋白分解酵素であるネプリライシや、タウ蛋白のリン酸化阻止酵素であるリーリンを分泌している事がわかりました。私達は、これらが治療効果を示すメカニズムの一つではないかと考えています。

2. 筋萎縮性側索硬化症 (ALS)

難病情報センターのホームページによれば、ALS は「進行性で、一度この病気にかかると症状が軽くなるということはありません」とあります。原因不明で治療方法も確立していない難病です。

ADSC 治療では、症状改善例が、54%(7/13)であり、並行例は、23%(3/13) , 悪化例は23%(3/13) でありました。

ALS の原因として、脳内に TDP43 蛋白が沈着することが知られていますが、私たちは、ADSC がこの蛋白を分解する酵素であるカスベース 4 を分泌することを発見しました。

3. パーキンソン病 (PD)

9 人の患者に ADSC 治療を行い、症状改善例が、89% (8/9), 非改善例が、11% (1/9)でありました。

パーキンソン病では、 α -シヌクレインの沈着による神経細胞障害が、原因の一つと考えられていますが、ADSC は α -シヌクレインを分解する酵素である G3BP1 を分泌する事を見つけま

した。

4. 慢性閉塞性肺疾患 (COPD)

10 人の患者に ADSC 治療を受け、80% (8/10) に改善例が見られた。

ADSC から、線維素分解酵素などが分泌され、肺の線維化が、改善されと考えられます。

5. その他

動脈硬化の改善や骨密度の改善も見られました。

ADSC 治療に関するお問合せ先

当財団：理事長 京都府立医科大学元学長：名誉教授 山岸久一

E メール：hisakazu.y.1101@gmail.com 携帯：090-1442-7904

がん集学的治療研究財団 概要

(財団 HP <https://www.jfmc.or.jp/>)

I 設立

昭和 55 年 6 月 23 日 厚労省医政局所管の財団法人として設立

II 役員構成

会長 藤田 譲 元 朝日生命保険相互会社 社長

理事長 山岸 久一 京都府立医科大学元学長 名誉教授

常務理事 桑野 博行 遠賀中間医師会 おかがき病院 地域総合支援センター センター長
理事

市川 大輔 山梨大学医学部外科学講座第一教室 教授

宇山 一郎 藤田医科大学先端ロボット・内視鏡手術学 主任教授

今野 弘之 国立大学法人 浜松医科大学 学長

三枝 稔 学校法人先端教育機構 特別顧問・評議員

瀬戸 泰之 国立がん研究センター中央病院 病院長

谷下 一夫 一般社団法人日本医工ものづくりコモンズ 理事長

松原 久裕 千葉大学大学院医学研究院先端応用外科学 教授

監事 2 名 **評議員** 14 名

各種委員会 一般研究選考委員会、臨床試験審査委員会、医療機器委員会、利益相反委員会、
財務委員会、データベース事業支援委員会、広報委員会

III 事業内容

臨床試験関連事業

患者様に負担の少ない治療法を選択すべく、50 を越える臨床研究を実施し、その成果は治療ガイドラインに記載されるなど、現実の治療に生かされてきた。

一般研究助成事業

がんの集学的治療や医療機器に関する研究を選抜し、研究資金を助成。

データベース事業

過去の大腸癌 7 試験についてデータベース化し、解析研究を実施。

医療機器事業

市販後調査、試作品評価の他、講演会・交流の場の提供を行うなど開発支援も実施。

講座・講演会事業

出版物の発行(一般研究助成事業成果報告書/JFMC 機関誌 等)、市民公開講座の実施。
上記の他、今回、新たに**幹細胞を用いた認知症・難病治療**をサポートする事業を開始。

公益財団法人がん集学的治療研究財団

所在地 〒136-0071 東京都江東区亀戸 1-38-4 朝日生命江東ビル 3 階

連絡先(総務) **Eメール** : soumu@jfmc.or.jp **TEL** : 03-5627-7593 **FAX** : 03-5627-7595